科目名	情報処理Ⅱ （Information Processing Ⅱ）

学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数
第3学年	電気工学科	履修	1単位	ー	講義と演習	後期	30 時間

担 当 教 員	【非常勤】 講師 爲末隆弘 （【副担当】 教授 橋本 基 ）

学 習 到 達 目 標

科目の到達目標レベル	①構造化プログラミングについて説明ができる。 ②数値計算の基礎が説明できる。 ③データの型について説明ができる。 ④基本的なアルゴリズムを図式表現できる。

到達目標（評価項目）	優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
到達目標①	構造化プログラムについて説明でき，3つの構造を用いた簡単なプログラムを作成できる。	構造化プログラムについて説明でき，3つの構造を用いた簡単なプログラムについて説明できる。	構造化プログラミングについて説明ができる。	構造化プログラミングについて説明できない。
到達目標②	数値計算の基礎が説明でき，数値計算を行う簡単なプログラムを作成できる。	数値計算の基礎が説明でき，数値計算を行う簡単なプログラムについて説明できる。	数値計算の基礎が説明できる。	数値計算の基礎が説明できない。
到達目標③	データの型について説明でき，プログラムの作成において，正確に使い分けることができる。	データの型について説明でき，データの型の違いを考慮して，プログラムを作成できる。	データの型について説明できる。	データの型について説明できない。
到達目標④	基本的なアルゴリズムを正確に図式表現でき，それをもとにプログラムを作成できる。	基本的なアルゴリズムを正確に図式表現できる。	基本的なアルゴリズムを図式表現できる。	基本的なアルゴリズムを図式表現できない。

学習・教育到達目標	(B)	JABEE基準1（2）	

達 成 度 評 価 （%）

評価方法 / 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40		20					100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎		○					
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】	○	○		◎					
汎用的技能【 】									
態度・志向性(人間力)【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力【 】									

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	情報処理Ｉ
教科書	「C言語とアルゴリズム演習」 鑰山徹著 （工学図書）
補助教材等	「C言語によるコンピュータ入門」 豊田等 （朝倉書店）

学習上の留意点
分かりやすく説明しますので授業をしっかり聴いて教科書を十分に読み込んでください。各実習は確実に手を動かしてプログラムを作成してください。プログラムは習うより慣れろといいます。できるだけ多くのプログラムを作るように心がけてください。

担当教員からのメッセージ

授　業　の　明　細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 （予習・復習）
1	リテラシーに関する実習	関連ソフト（ terapad、cygwin）を使用することができる。	第１回目の内容を復習して、次回の予習をする。
2	簡単なプログラム１（連接構造）	整数および実数データの入出力のプログラムについて説明できる。	第２回目の内容を復習して、次回の予習をする。
3	簡単なプログラム１の実習	整数および実数データの入出力のプログラムを作成できる。	第３回目の内容を復習して、次回の予習をする。
4	簡単なプログラム２（連接構造）	四則演算および初歩的な演算の仕組みのプログラムについて説明できる。	第４回目の内容を復習して、次回の予習をする。
5	簡単なプログラム２の実習	四則演算および初歩的な演算の仕組みのプログラムを作成できる。	第５回目の内容を復習して、次回の予習をする。
6	選択構造１	２数の最大を求めるプログラム，奇遇判定のプログラムを理解し，２分岐構造について説明できる。	第６回目の内容を復習して、次回の予習をする。
7	選択構造１の実習	２分岐構造を用いたプログラムを作成できる。	第７回目の内容を復習して、いままでのまとめをする。次回の予習をする。
8	**中間試験**		
9	試験問題解説と選択構造２	中間試験で間違った箇所を理解し，すべて解くことができる。 成績判定プログラム、二次方程式解法のプログラムを理解し，多分岐構造を説明できる。	第９回目の内容を復習して、次回の予習をする。
10	選択構造２の実習	多分岐構造を用いたプログラムを作成できる。 文字型データについて説明できる。	第１０回目の内容を復習して、次回の予習をする。
11	反復構造１	前の処理が後の処理に影響を与えない場合の反復処理プログラムについて説明できる。	第１１回目の内容を復習して、次回の予習をする。
12	反復構造１の実習	反復処理プログラムの繰り返し回数指定と繰り返し回数未定の場合についてのプログラムを作成できる。	第１２回目の内容を復習して、次回の予習をする。
13	反復構造２	前の処理が後の処理に影響を与える場合の反復処理プログラムについて説明できる。	第１３回目の内容を復習して、次回の予習をする。
14	反復構造２の実習と課題問題	前の処理が後の処理に影響を与える場合の反復処理プログラムを作成できる。	第１４回目の内容を復習して、次回の予習をする。
	期　末　試　験		
15	試験問題解説、および、授業評価アンケートをおこなう。	期末試験で間違った箇所を理解し，すべて解くことができる。	
総 授 業 時 間 数			30 時間